日本生体医工学会　令和元年度第 3 回理事会議事録

日時　令和元年 10 月 4 日（金）　14：00～17：00
会場　コンベンションホール AP 丸の内 3 階 F ルーム

＜出席者＞
理 事 長：　木村　裕一
副理事長：　守本　祐司、大城　理（兼関西支部長）
理　　事：　川田　徹、平田　雅之、生田　幸士（兼 2019 年大会長）、
井村　誠孝（遠隔出席）、中島　一樹（遠隔出席）、
成瀬　恵治（兼 2020 年大会長・遠隔出席）、松村　泰志、横澤　宏一、
佐久間　一郎（兼関東支部長・遠隔出席）、中島　章夫、原口　亮、福岡　豊、
村垣　善浩（遠隔出席）
監　　事：　吉田　正樹、中沢　一雄
＜オブザーバー・出席者＞
幹　　事：　永岡　隆、鷲尾　利克
事務局長：　磯山　隆
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：　櫻井　理紗（臨床研究法 WG）、清水　久恵（北海道支部長）、
芳賀　洋一（東北支部長）、長谷川　純一（東海支部長）、
鈴木　亮一（北陸支部長・遠隔出席）、伊良皆　啓治（九州支部長）

＜欠席者＞
理　　事：　松田　哲也、坂田　泰史、椎名　毅（兼 2021 年大会長）
監　　事：　澤　芳樹
幹　　事：　京相　雅樹

＜理事会議題＞

０．理事会成立の件　総務【議案 A】
定款 34 条 2 項に則り、定足数 10 名を超える理事 16 名の出席、監事 2 名の出席（内 5 名はテレビ会議システムによる参加であり、参加役員は映像・音声について確認した）を確認したことから、本理事会は成立した。

１．2019 年度第 2 回議事録承認の件　総務【議案 B】
資料 2019-3-B に基づき、2019 年度第 2 回議事録が確認され、全会一致で原案通り承認された。

２．生体医工学シンポジウム 2019 報告　シンポ WG【議案 E】

資料 2019-3-E に基づき、報告があった。参加者数はほぼ例年通りの 255 名であった。論文投稿は 35 件あり、現在査読プロセス中である旨報告があった。また、各種選奨に関する報告もあった。

収支は¥707,032 の黒字となり、学会からの¥600,000 の準備金を考慮しても¥107,032 の黒字であったことが報告された。シンポジウム WG がインセンティブ運用を希望する場合は、準備金を収入として計上した黒字額の半額を申請可能であることが確認された。なお、全国大会は各支部へのインセンティブ、生体医工学シンポジウムや専門別委員会は各 WG 等がインセンティブを申請する権利があることが確認された。

2020 年度は東北支部・弘前大学、2021 年度は北陸支部・北陸大学で開催予定であること、2022 年度は関西支部で開催予定である旨報告された。

投稿が減少していることが指摘されたことから、支部を通して生体医工学シンポジウムへの参加及び論文投稿への勧奨を行うこととなった。

3. 第 58 回大会の決算報告　58 回大会【議案 I】

資料 2019-3-I.1～4 に基づき、第 58 回大会の決算報告があった。沖縄コンベンションビューローへコンベンション開催支援事業に実績報告書を提出し、満額である 400 万円の助成金の交付が確定した旨報告があった。今後学会の公認会計士による大会経理の確定後、合同開催した看護理工学会とは、参加者数の比率である生体医工学会 82%・看護理工学会 18%で案分することが全会一致で承認された。

シンポジウムと大会で予算規模に大きな違いがあることに意見があった。大きな違いは会場費と運営委託費、運営委員会自体の働きであると考えられることから、大会のスリム化は必要であるが、限界があるとの意見が多かった。

次期大会も生体磁気学会との共催となることから、按分についてはあらかじめ覚書を交わすこととなった。

４．APCBME2020 について　国際【議案 K】

資料 2019-3-K に基づき、APCBME2020 の準備状況が報告された。ウェブサイトが稼働した旨報告があった。IFMBE の co-sponsored conference の指針が変更されたようなので、後日変更内容について報告がある。

大会中に IFMBE の administrative council が開催されるが、委員の旅費は IFMBE が負担するので、岡山大会が負担することはない。

５．臨床研究法該当性ガイドライン(案)について　臨床研究法 WG【議案 L】

資料 2019-3-L に基づき、その研究が“法が定めるところの臨床研究”に該当するかを判断するための臨床研究法ガイドライン(案)が提示された。会員からのパブリックコメント等が反映されたガイドライン案が提示された。図 2 の表現がわかりにくい旨コメントがあったが、今後補足説明等を追加することとし、WG に一任したうえでガイドラインは全会一致で承認された。今後公開する。公開にあたっては WG に参加した各学会の連名とし、生体医工学や ABE に掲載するとともに、この内容に関する教育講演を岡山大会で実施する。また、ガイドラインを構成する生体医工学技術ごとの安全性について記述する別表については、初例として電気刺激の安全性を検討する。今後は電気刺激以外も検討する。

６．専門別委員会の活性化について　学術【議案 H】

資料 2019-3-H に基づいて専門別研究会の現状が報告された。専門別研究会評価委員会の運用、研究会の活動の広報、会長及び幹事の任命について、規定との齟齬がある委員会があることから、今後運用を見直す。

研究会及び大会の活性化を意図して、複数の専門別研究会が合同した企画を大会プログラムの下で実施することを勧奨するために、海外を含む外部講師を招聘するための支出や、その他研究会が主導する研究会及び大会の活性化に供するための支出ができる制度を新設することが提案され、全会一致で承認された。まずは上限 30 万円、１～２件を条件とし、岡山大会で試行する。

専門別研究会によって活動度に差があり、又活動内容が見え難いという意見があったことから、今後は専門別研究会評価委員会を厳密に運営するとともに、広報、編集担当等と協力して、会員が研究会にオープンに参加できるよう、広報を進めることとなった。生体医工学誌への研究会の会告の掲載や、学会ウェブサイトの活用を検討する。

また、現在学術担当理事が専門別研究会の委員長を兼ねている。担当理事は評価や改廃を所管することから、年度内に兼務を解消することを確認した。

７．ABE 誌のインパクトファクター取得への取り組み　編集【議案 M】

資料 2019-3-M-1 に基づいて、インパクトファクター(IF)取得に向けた活動についての報告があった。JST のジャーナルプレゼンス強化事業の支援を受けていることが報告された。その下でオープンアクセス誌のデータベースである DOAJ に収載されることが IF 取得に有効であるため、それに向け、CC ライセンスを取得し、それを Aims and Scope、 Information to Authors に反映することが報告された。CC ライセンスについて、原則 CC BY とし、CC BY SA、CC BY NC も選択できることが説明された。CC ライセンスの取得は将来の掲載料の徴収を妨げないことを確認した後、全会一致で承認された。本件に伴い、著者が学会に著作権を譲渡する必要が無くなり、代わりに編集権を学会に付与することになることから、投稿票などの書式の変更は編集委員会に一任し、DOAJ に年度内に申請することを目指す。

その他オープンアクセスに対する費用について質問があったが、現状 ABE 掲載の費用は学会負担であることから、本件で新たな負担の発生は無い。又、CC ライセンスは、出版済みの論文に遡って付与することや、掲載された論文に対して一度設定したライセンスは変更できない旨コメントがあった。Index Medicus の取得についてもコメントがあったが、将来的に検討する。

JST の強化事業は IF 取得後にその維持を目的としする志向が強いことから、より短期での IF の取得を目指すべきだとの意見があった。現状においても、ABE 創刊時に目標としていた被引用数である 0.8 は学会内部からの ABE 掲載論文への引用によって達成されている。IF 取得のために現在求められている被引用数 1.5 を実現するために、学会内に向けて、各種国際学会の直前に ABE の引用をアナウンスすることなどで引用数を増やすことや海外著者を増やす活動を活発化するようコメントがあった。

８．生体医工学誌の価格標記について　編集【議案 M】

生体医工学の価格を、「1 冊 2,400 円税抜き」、「年間 6 冊 14,400 円税抜き」という表現に変更する提案があり、全会一致で承認された(資料無し)。なお、現在は合併号が出版されているが、合併号の価格は 2 倍の 4,800 円税抜きとなり、年間合計は 14,400 円税抜きで変わらないことが確認された。

９．選奨について　選奨【議案 P】

資料 2019-3-P-1.1～5 に基づき、選奨の報告 1 件ならびに申請 4 件があった。全会一致で承認された。

10. 入退会状況の件　会員【議案 C】

資料 2019-3-C.1～3 に基づき、会員の入退会状況が確認され、全会一致で承認された。

11. 委員会・WG 構成の件　各委員会・WG【議案 D】

資料 2019-3-D に基づき、各委員会・WG の構成が提案され、全会一致で承認された。なお、利益相反委員会の構成は次回理事会で審議する。選奨委員会については規定に基づき各賞の委員長が本理事会で承認されたので、各賞の委員については次回理事会で審議する。

12. 選挙の電子化見積について　選管【議案 F】

資料 2019-3-F.1～2 に基づき、選挙の電子化について報告があった。学会支援機構から見積もりが示され、初期費用がかかるが、経費の大半を占める郵送費及び開票に係る人件費が不要となることから、以後大幅に費用が軽減されることが分かった。概ね 1 回の選挙にかかる費用が 100 万円から 25 万円程度にまで軽減されることが期待できる。従来と同一の投票機能は維持される。業者との間に秘密保持契約が必要かどうかを確認し、来年の理事・監事選挙から実施される予定で進めることが全会一致で承認された。

13. 若手研究者活動 WG について　若手 WG【議案 G】

資料 2019-3-G-1.1～2 に基づき、若手研究者活動 WG の活動について報告があった。まず、サマースクール 2019 の報告があった。38 名の参加があり、95%の参加者が満足しており、13 名の入会があったことの報告があった。また、35 万円弱の黒字があったことから、次回理事会以降にインセンティブ運用を申請する予定である旨報告があった。次に YIA の実施状況が報告され、Web サイトを運用したこと、医学系学会にポスターを送付していることなどが報告された。看護理工学会にも広告する旨意見があった。

14. 臨床 ME 専門認定士認定日の件　CE 委員会【議案 Q】

資料 2019-3-Q（当日配布）に基づき、臨床 ME 専門認定士の認定日件について報告があった。現在、2 月から 3 月にかけて開催される関連する委員会や理事会での審議に基づいて、1 月 1 日に遡った認定証が発行されていることに問題があるのではないかという指摘が日本医療機器学会からあった。遡ることの是非や規定との整合性を司法書士に確認することとし、クリニカルエンジニアリング委員会で現状維持の可能性を検討する。

15. ME 試験の九州支部における事案について　教育

九州支部から、ME 試験の実施に関する問題提起があった。九州支部における試験責任者から、体調不良を理由とした担当交代の申し出があった。しかし、これまでは試験監督に関する規定は無いことから、継続的に実施できるシステムを作る必要がある。他の地区でも同様の問題を含んでおり、本件は ME 技術教育委員会に持ち帰り、議論することとした。

16. 生体医工学テキストの編集状況　医学科 ME 教育【議案 O】

資料 2019-3-O に基づき、生体医工学テキストの執筆状況について報告があった。現時点で 6 章分が脱稿できていない。オーム社より、脱稿から出版まで 5 か月は必要であるとのことから、年度内の出版を目指す。

ウェブ上の用語集との連携が必要であるが、用語集がほとんど進んでいないため、執筆には理事会メンバーが積極的に当たることを申し合わせた。項目数は 100 強になる予定。

17. 2020 年学会大会進捗報告　59 回大会【議案 J】

資料 2019-3-J.1～2 に基づき、2020 年大会の準備状況が報告された。概ね例年通り順調に進んでいる旨報告があった。特に、大規模なプロジェクトを運営している先生に、岡山大会で講演会等を実施してほしい旨依頼があった。また、企業からの広告を募集しているため、心当たりがあれば連絡してほしい旨依頼があった。

18. 臨床工学技士会との連携の現状　臨工技士会連携 WG【議案 N】

資料 2019-3-N に基づき、臨床工学技士会との連携について報告があった。生体医工学シンポジウム 2019 において、臨床工学技士の取得・維持に必要なポイントの取得ができる対象となった。今後も大会やシンポジウムを対象にする予定。

支部に対し、臨床工学技士の現場に由来する研究ニーズの把握を通し、都道府県単位の臨床工学技士会と連携を図ることとした。

19. その他

資料 2019-3-R に基づき、後援・協賛状況が回覧された。

以上